

ひらかれた 魅力ある同窓会

奈良教育大学同窓会

わが母校、「奈良教育大学」の創立は「奈良県尋常師範学校」として、明治21年に設立し、その2年後明治23年（1890）「奈良県尋常師範学校同窓会」が創設されたのです。

昭和41年創立80周年の記念を期に「奈良教育大学同窓会」と改称し、百有余年の歴史を重ねてまいりました。

我ら同窓生一同は、今改めて諸先輩方々が、築き伝えてこられた「奈良教育大学同窓会」の【いのち】の歩みを、力強く継承して行くことを誇りとしたいものです。



奈良教育大学同窓会の歩み

同窓会が最初に結成されたのは、明治23年（1890）1月9日「奈良尋常師範学校同窓会」として学校創立の2年後に発足した。明治24年2月6日「奈良尋常師範学校会則」が制定され、さらに明治30年2月12日「奈良県尋常師範学校卒業生同窓会会報」第1号が発行された。

明治31年（1899）8月28日、「奈良県尋常師範学校卒業生同窓会」の総会において「興東会」と命名され、「興東」とは興福寺の東に興った会という意味でつけられた。その後この興東会の名は戦後合併するまで続いた。なお、女子師範同窓会「和光会」・青年師範学校同窓会「向陵会」の三同窓会とも戦後合併するまで続けられた。

「興東会」の結成と同時に「支会」が成立し、規定・綱領も決定「興東会」の活動も活発化し、明治39年の総会では「興東会歌」が制定された。会の組織も大正期には充実発展し、大正3年創立25周年の記念式典が盛大に行われた。

大正2年11月県立女子師範学校は創立10周年を迎え大正3年11月第1回総会が開催され大正7年7月1日同窓会名が「和光会」と命名された、出典は老子による「和其光」により「我が知徳を隠してみだりに外にわたさず」という、また、古都にふさわしく「大和」の光とも解される。奈良県の初等教育界を担う男子範の「興東会」とともに母校の事業に大いに挙力を貢献してきた。

なおこの時期に実業補習学校教員養成所において大正13年3月「育芳会」という同窓会が結成される。

興東会の活動は互助活動・慰問活動と短期現役兵の慰問活動が定着するようになる、昭和9年9月21日室戸台風の被害により母校の改築運動が組織され改築が急務となる、募金、公募寄附により昭和10年から着工し6年の歳月を経て昭和15年11月23日創立50周年新校舎落成、興東会の面目躍如たるものがあつた。

和光会は、大正7年に命名合併されて以来昭和4年秋「和光会館」が落成及び和光会の事業集うとして附属幼稚園開設運動を進めたが終戦によりその成果を見ることはなかつた。

向陵会は昭和18年4月青年師範学校に昇格となるが同窓会の結成は遅れて、その後「農業会」は従来の「育芳会」とが昭和7年3月「育芳会」と「農業会」とが合併し名称も新しく「向陵会」となる。

戦後旧師範学校は大学に昇格し、同窓会も再編された。昭和23年5月、旧師範は大学に昇格し、学芸大学と必然的に合併することになるが、昭和26年3月21日「国立設置法」により男・女師範学校はそれぞれ幕を閉じ卒業生は、男子は「興東会」女子は「和光会」に入会し旧慣のまま残ることになる。

しかし、昭和28年3月興東会の代表と和光会の代表のそれぞれの代表が県教育委員会のすすめにより同窓会は一体化となり、「奈良学芸大学同窓会」と命名される。昭和29年3月14日三同窓会の合併総会が開催される。昭和32年8月10日同窓会「会誌」第1号が発行される。

昭和41年5月3日「奈良教育大学同窓会総会」において「奈良学芸大学同窓会」の同窓会名は「奈良教育大学同窓会」と改称された。5月25日評議委員会において大学在職の会員によ

って常任委員会を組織し80周年記念事業を協議、創立80周年を迎える前後から有志による自発的に同窓会が開かれようになり、各地域に支会が開催されるようになった。奈良・郡山・磯城・生駒・東京・大阪・三重・姫路など旧興東会の卒業年次同窓会の動きもあり、天理市では昭和44年4月天理市在住の教職員による「天理市興和会」が結成され発足する。また奈良青年師範学校創立50周年（昭和45年）に同好会を呼びかけ4月29日に開催、そのおり教育大学同窓会の一体化の推進の必要が力説されたが自発的な集いの「玉だすき会」が発足した。

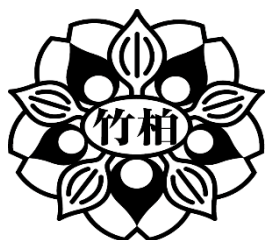
「奈良教育大学同窓会」は昭和41年5月3日「奈良学芸大学同窓会」の総会において「奈良教育大学同窓会」と改称された。

時を経て、昭和62年に大学創立100周年を迎え、さらに1990年に同窓会結成100年目を迎え、「会報第33号 同窓会結成100周年記念号」が発行された。

また、同窓会100周年記念植樹として、「ナラノヤエザクラ」と「九重桜」が講堂西側に植え付けられた。その後、平成22年には、奈良教育大学同窓会が創立120周年を迎え、記念講演会（11月20日＝講師長田光男氏・元奈良教育大学同窓会会長）が行われた。

令和3年の奈良教育大学同窓会創立130周年を迎えるにあたり、130周年記念事業として、クラブハウス建設基金を募り、クラブハウス全面改築事業の一助となるように令和元年より活動を開始した（具体的には、後述「クラブハウス建設基金最終報告」を参照＝まほろば第35号掲載より）。

一方、奈良教育大学同窓会は、組織の在り方、活動内容等において改善を図る必要を感じ、一般社団法人化することを理事会等で審議し、総会で了承を得た。令和元年6月25日に法務局より承認を受け、「一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏(なぎ)会」となり、これまでの同窓会活動の継承・発展をめざして取り組まれることとなる。



春日大社境内のナギ(竹柏)樹林は、大正12年国指定の天然記念物に指定された。ナギの葉は、縦方向に葉脈が走り横に裂けにくいことから「縁が切れない」や、「苦難をなぎ倒す」等として縁結びや開運の御守として使われている。

同窓会竹柏会のロゴマークは、八重桜の花と竹柏の葉と実を組み合わせてデザインした。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年～4年と総会が開催できない状況となった。

その中で、理事会活動を中心に、正会員総会・支会長会等を開催し、会報「まほろば」発行等の活動を維持継続している。

「130周年記念事業」は、令和4年3月末をもって終了し、同年6月1日に「クラブハウス竣工式」が催された。(詳細は、最終報告参照)

また、令和4年度には、学生会員と話し合いを持ち、希望を聞きながら「まほろば徳・得講座」を三回開催できた。

令和4年4月より、奈良教育大学と奈良女子大学は法人統合し、「国立大学法人奈良国立大学機構」を設立した。